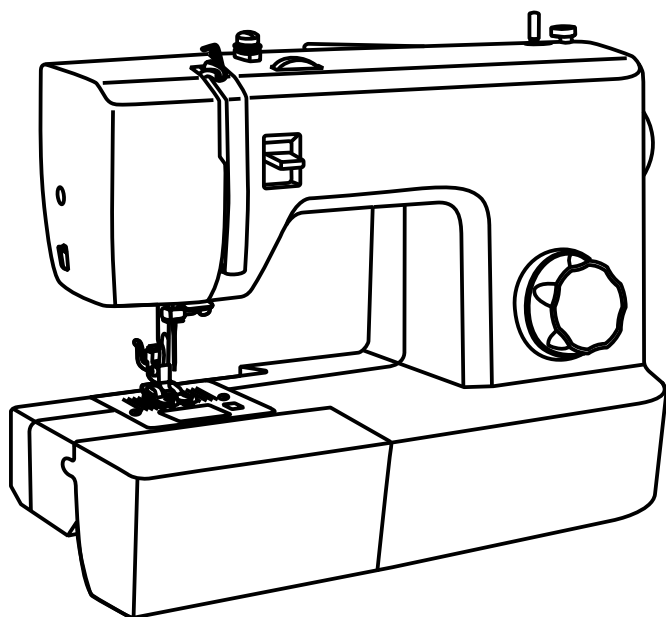


SINGER®

Compact sewing machine

使用の手びき

型式: SN55e



このミシンを安全にお使いいただくため、この
「使用の手びき」をご使用前に必ずお読み下さい。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用下さい。

このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできるミシンです。このミシンの特徴をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証と共に大切に保管してください。

◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠ 警告：感電、火災の恐れがあります。

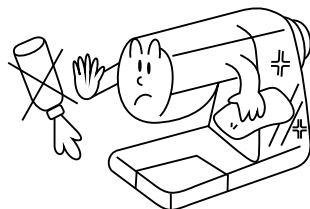
1. 一般家庭用交流電流 100V でご使用下さい。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。 ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。 ・ 雷が鳴りはじめたとき。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。

⚠ 注意：感電、火災、けがの原因となることがあります。

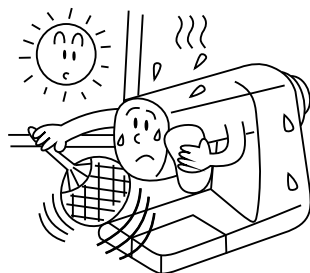
1. 電源をつなぐ際は、電源スイッチを必ず「OFF」にしてください。
2. お客様自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
5. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
 - 針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき。
 - ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
 - 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - 上糸・下糸をセットするとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を中止し、購入店または、お客様相談係にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

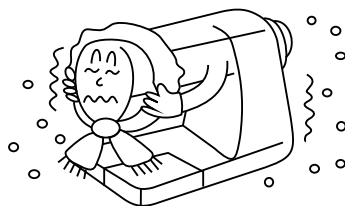
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところに置かないでください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



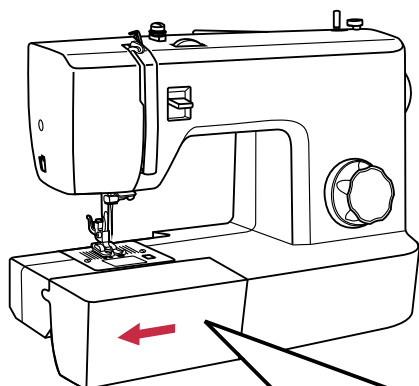
◆ 仕様

定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz / 60Hz
LED ライト	Max. 100mW
寸 法	幅 : 399 mm × 奥行 : 180 mm × 高さ : 297 mm
重 量	約 5.65 kg (本体のみ)

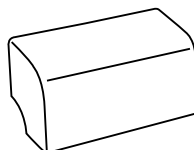
◆ 目 次

安全にご使用いただくために	2
ミシンの取り扱い、仕様	3
目次	4
付属品	5
補助テーブル	6
各部の名称	7
電源のつなぎ方と始動、停止	8
ボビンの取り出し方	9
下糸の巻き方	10/11
ボビンのセット	12
上糸のかけ方	13/14
糸通しの使い方	15
下糸の引き上げ方	16
針の取り付けと取り外し方	17
模様の選び方	18
上糸調子のとり方	19
布地の裏側がタオル地のようにするのは	19
押えの取り付けと取り外し方	20
2段式押え上げ、ドロップフィードレバーの使い方(送り歯の上げ下げ)	21
直線ぬい	22
返しぬい、ぬい方向のかえ方、厚地のぬい始め、糸をカットするには	23
飾りぬい	24
ジグザグぬい	24
まつりぬい(ブラインドステッチ)	25/26
ボタンホールのぬい方	27
ファスナー付け	28/29
ボタン付け	30
ミシンの手入れ	31
調子よくぬえない原因と解決方法	32
LEDライトの交換	33
針と糸と布地の組み合わせ	33
修理サービス要領	34

◆ 付属品



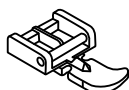
- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。



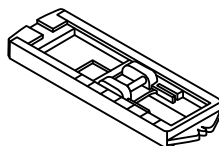
- 開け方は 6 ページの図 2 を参照



ジグザグ押え
(購入時はミシン本体にセットされています)



ファスナー押え



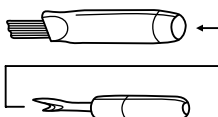
ボタンホール押え



ボタン付け押え



ドライバー



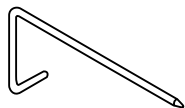
リッパー／ブラシ



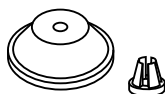
針パック



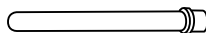
ボビン



シームガイド



糸コマ押え (大小)
※糸コマが細い時には、
(小) を使用してください。



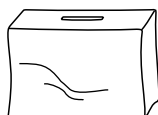
補助糸立棒



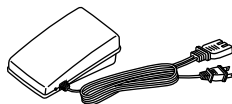
糸コマ座



使用の手びき



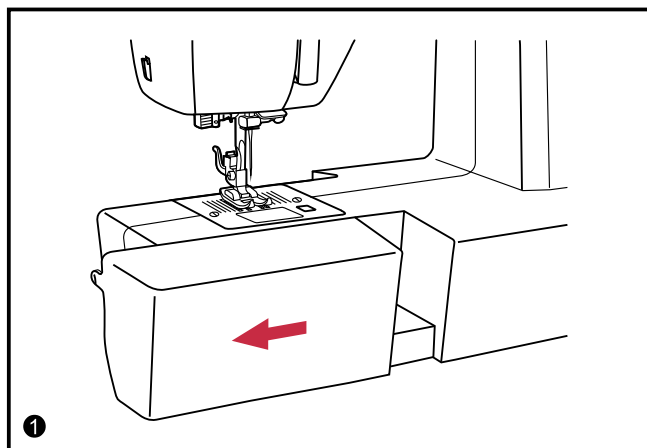
ソフトカバー



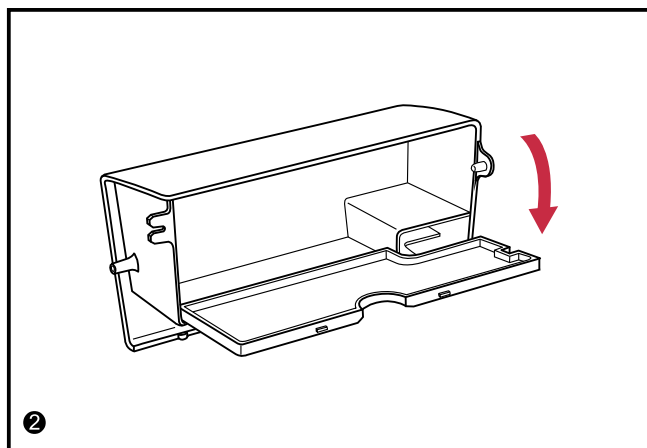
フットコントローラー
(電源コード 一体式)

◆ 補助テーブル

※小物の布地をぬう場合、付属品箱を補助テーブルとして使います。

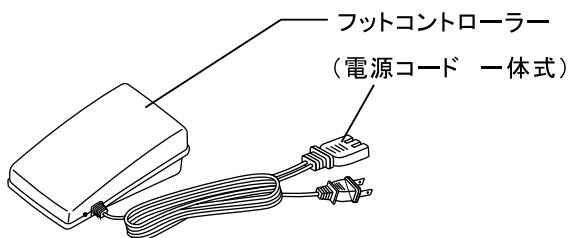
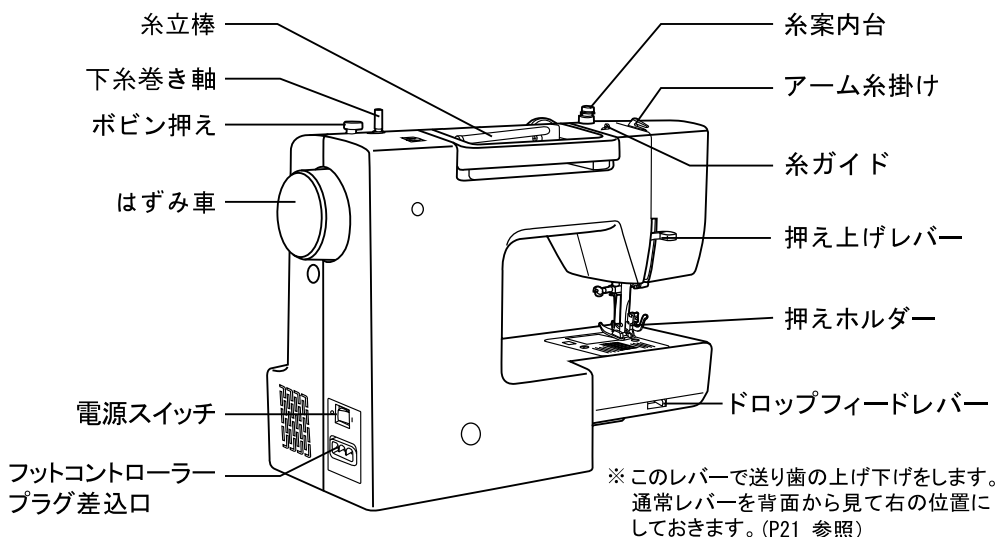
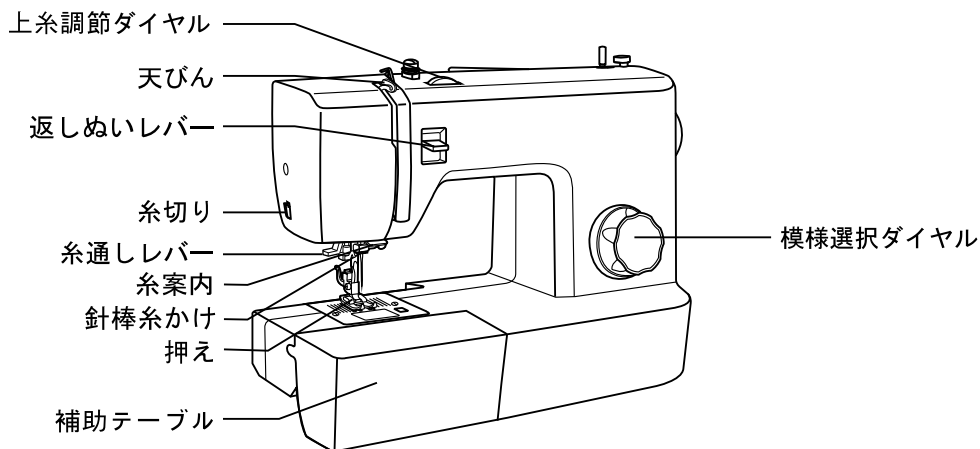


- ① 補助テーブルを外せば、フリーアームとして使えます。補助テーブルの左はしを持って、矢印方向に引くと簡単に外れます。



- ② 補助テーブルの内部は、付属品入れとなっています。内側のカバーを手前に引けば、開きます。

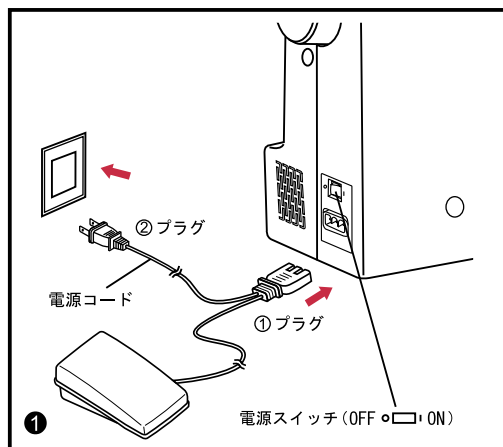
◆ 各部の名称



◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

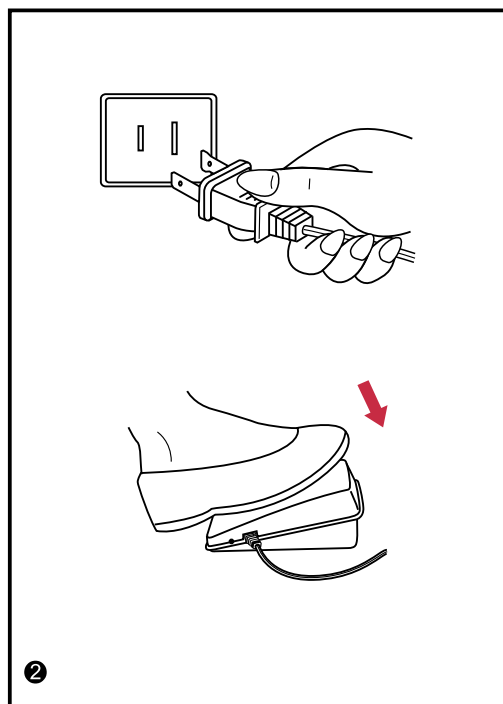
⚠ 警告：感電、火災を防ぐために

電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



- ① 電源コードのプラグ①をマシンに、プラグ②を家庭用電源(100V50/60Hz)コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れますと照明ランプが点灯します。



② ご注意

マシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいてください。

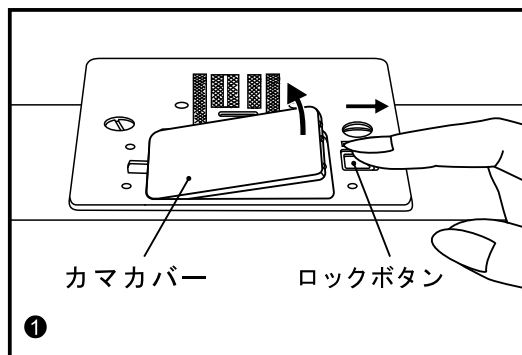
警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

コントローラーの使い方

- ・ 軽く踏む：ぬいスピードは遅い
- ・ 深く踏む：ぬいスピードは速い

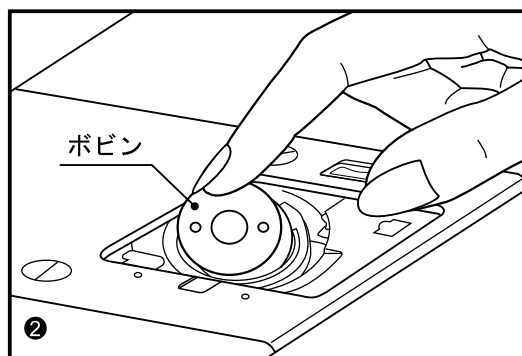
◆ ボビンの取り出し方

⚠ 注意 :ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



ボビンの取り出しは、カマカバーを開けてから行います。

- ① カマカバーの右にあるロックボタンを右へスライドさせると、カマカバーが開きます。



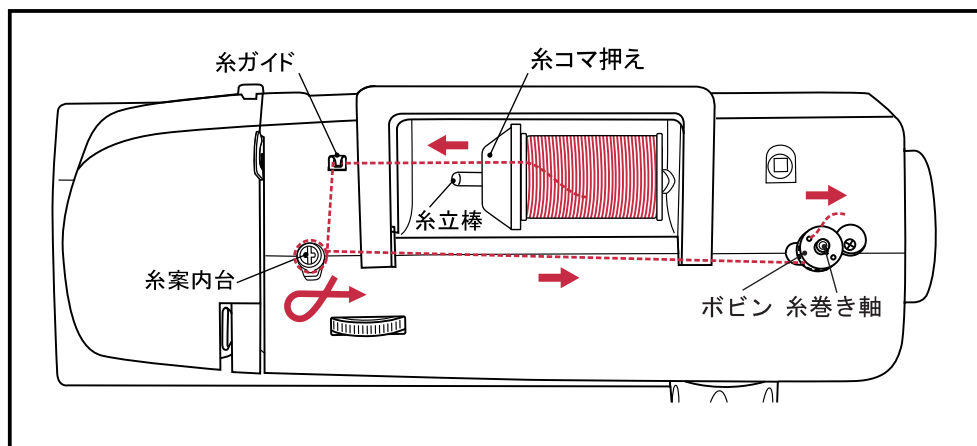
- ② カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

◆ 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意 : ケガ防止のために

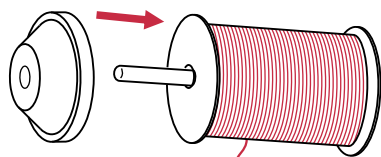
- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- ボビンは必ず専用ボビン(高さ11.5mm プラスチック製)を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



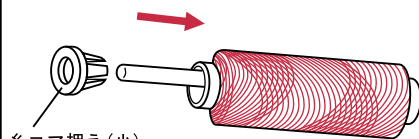
糸コマをセットします

糸縦棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。

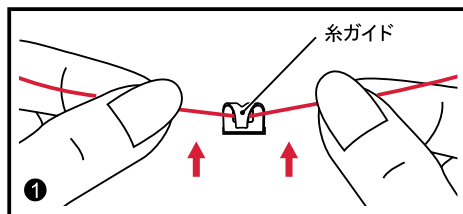


※糸巻きに切りみぞがあるときは、それを右側にご覧ください。



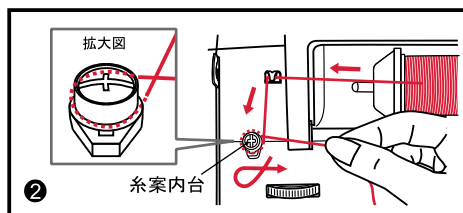
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

◆ 下糸の巻き方

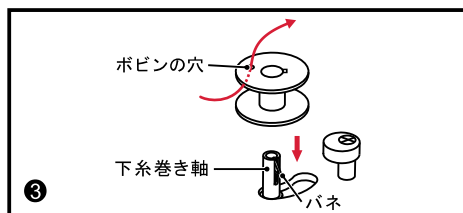


下糸を巻きます

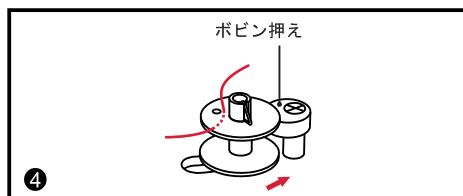
① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸を通します。



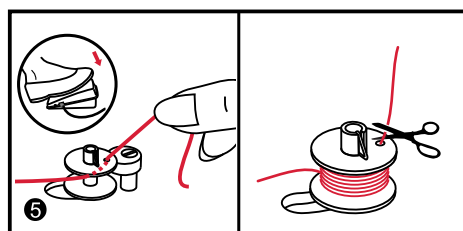
② かけた糸の糸はしをさらに引いて、糸案内台の下すき間に、手前から後ろ(左回り)に糸をかけます。



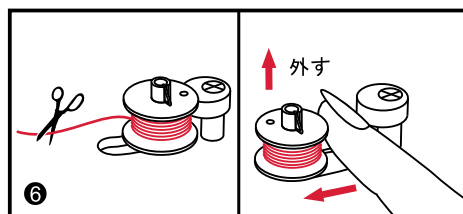
③ 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。



④ 下糸巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。



⑤ ボビンの表面の穴に入れた糸を、10cmほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方向に持ちます。フットコントローラーを軽く踏み巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ボビンの上に出ている余分な糸を切ります。その後、再度巻きます。

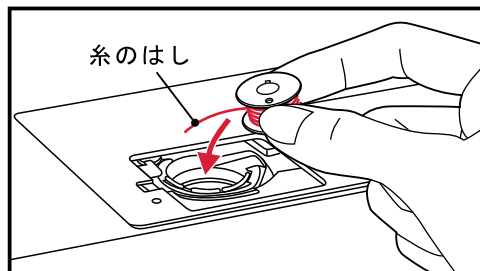


⑥ 巻き終わると、ボビンの回転が止まります。糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

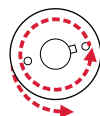
◆ ボビンのセット

⚠ 注意 : ケガ防止のために
ミシンを操作する際は、必ずカマカバーを閉めてください。

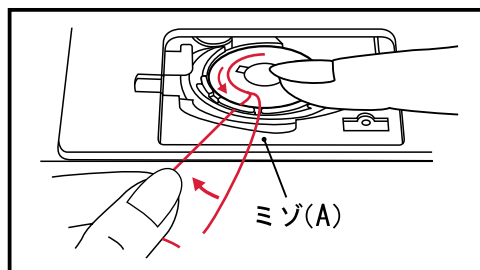
● ミシンへセットします



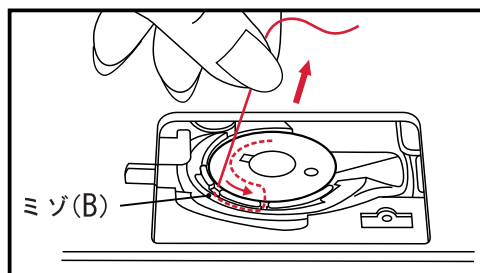
- ① カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



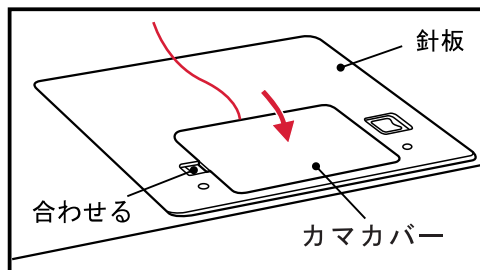
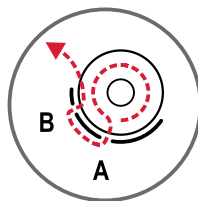
糸の方向



- ② 右手でボビンを押え、左手で糸のはしを引きながら、ミゾ(A)にかけます。



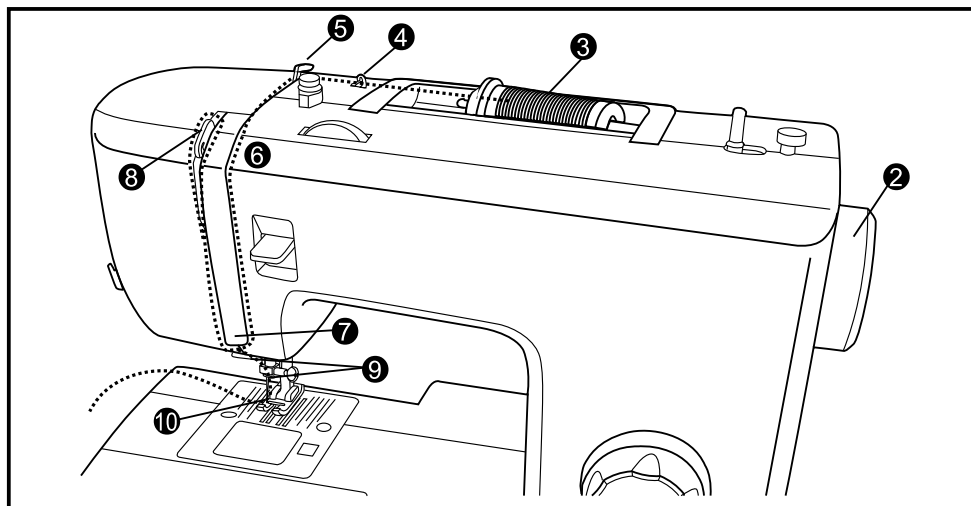
- ③ そのまま糸をミゾ(B)にかけ、左奥へ出します。



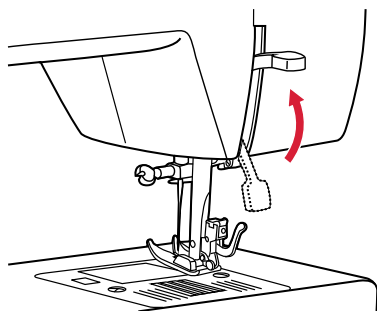
- ④ カマカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。

◆ 上糸のかけ方

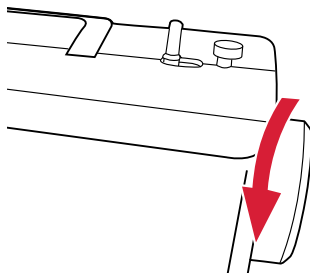
⚠ 注意 : ケガ防止のために —
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



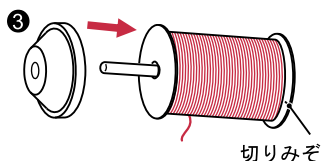
- ①
押え上げレバーを上げます。



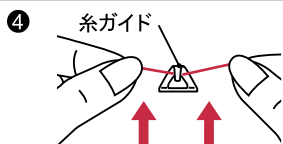
- ②
はずみ車を手前に回して針を一番上の位置に上げます。



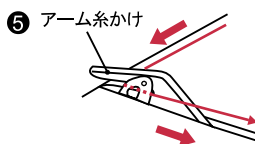
◆ 上糸のかけ方



糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押えで糸コマを押えます。
※糸コマが細い場合には、糸コマ押え（小）を使用してください。



糸ガイドに手前から奥に糸を通します。

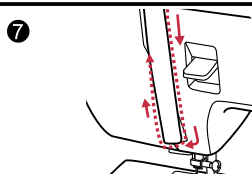


アーム糸かけに後から手前に糸をかけます。

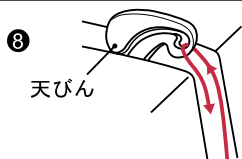


右側の糸道に糸を引きおろし、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。

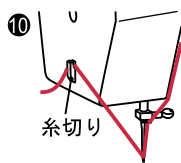
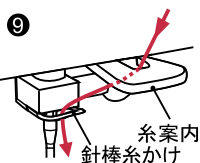
※糸調子皿はミシン内部の部品ですので外からは見えません。



矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。



天びんの右から後へ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



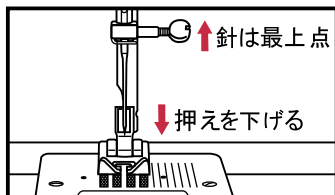
⑨ 糸案内に右から糸をかけます。
針棒糸かけに、右から糸をかけます。

⑩ 針穴は前から後に通します。
余分な糸は糸切りでカットします。

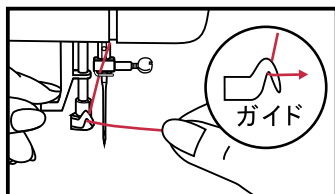
◆ 糸通しの使い方

⚠ 注意：ケガ防止のために

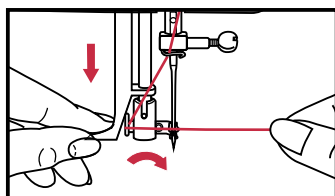
- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。



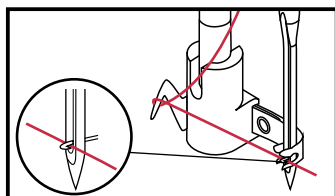
- 押えを下げます。
- はずみ車を手前に回して針を一番上の位置に上げます。
※糸通しが使える針は、11番、14番、16番です。



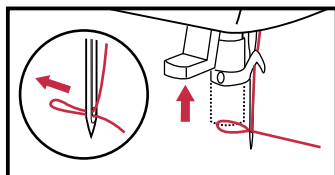
- 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいていきます。



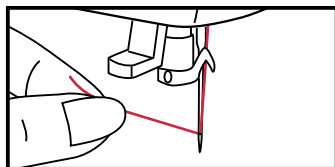
- レバーをいっぱい下げます。
※糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。



- フックの下に糸をかけます。

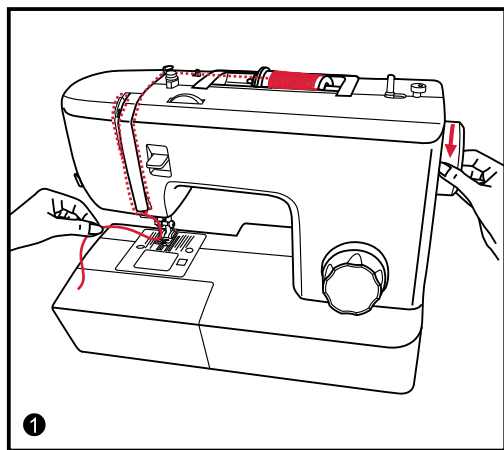


- 糸を軽く持ってレバーをはなします。
※フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

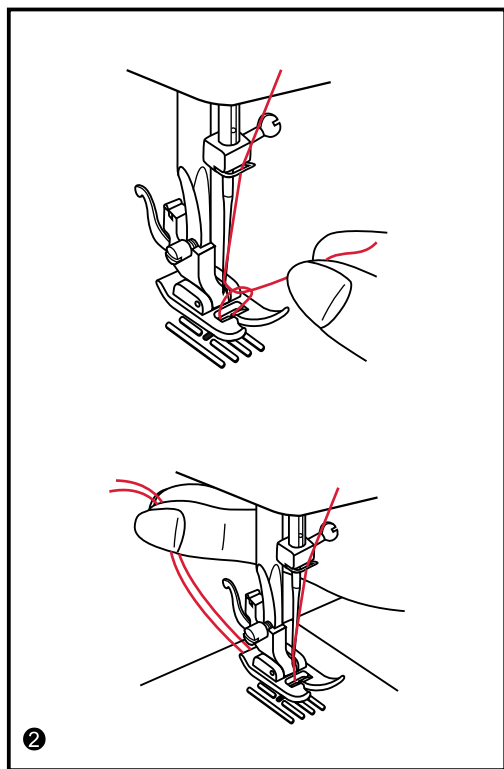


- 糸はしを針穴から10cmくらい後ろへ引き出しておきます。

◆ 下糸の引き上げ方



- ① 上糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針を
いったん針板の下に下ろし、その後
上げます。



- ② 上糸を引くようにして、下糸を
針板の穴から引き出します。
上下の糸はしをそろえて、押えの
下を通し、後ろ側に出します。

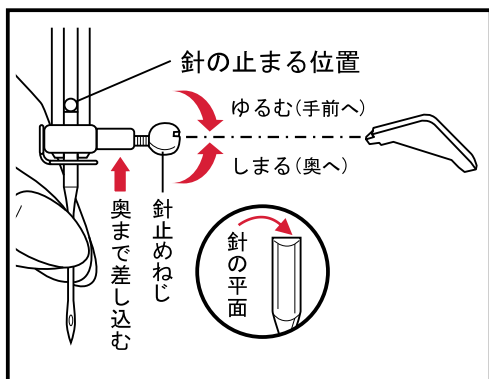
◆ 針の取付けと取り外し方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 曲がった針やつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HAXI)をご使用ください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。

33ページの「針と糸と布地の組み合わせ」を参照してください。



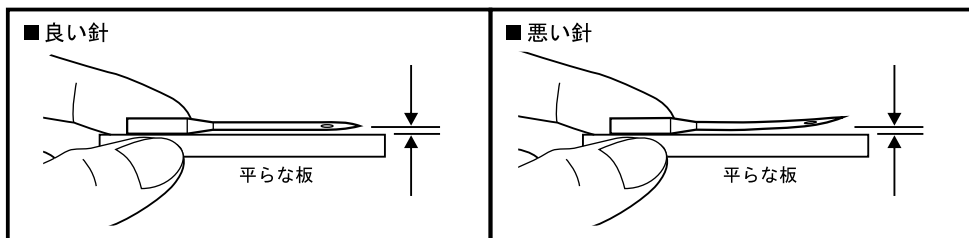
電源を切ります。

押え上げレバーを下に下げます。

針止めネジをドライバーで手前に回し
ゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジをドライバーで締めつけます。

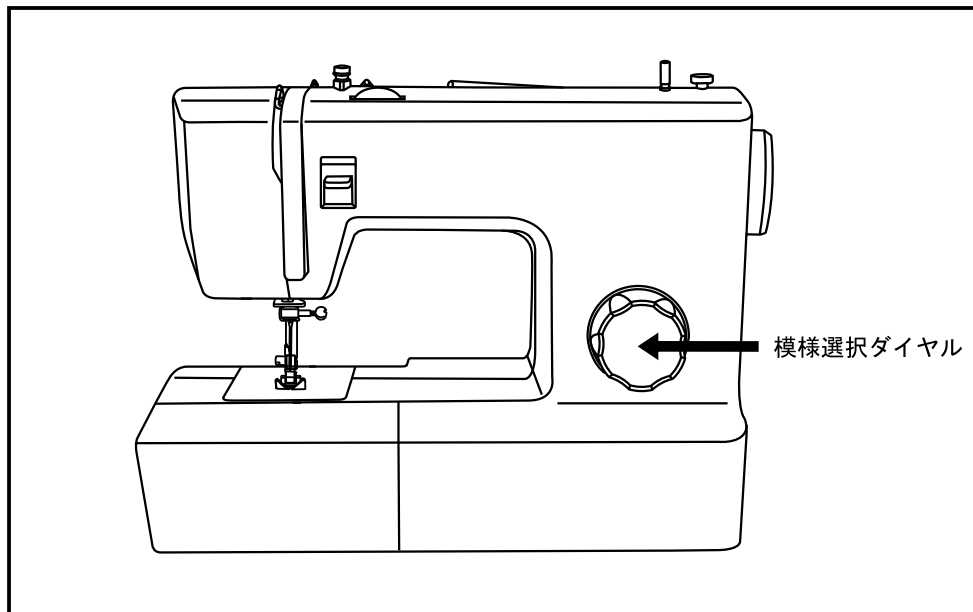
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



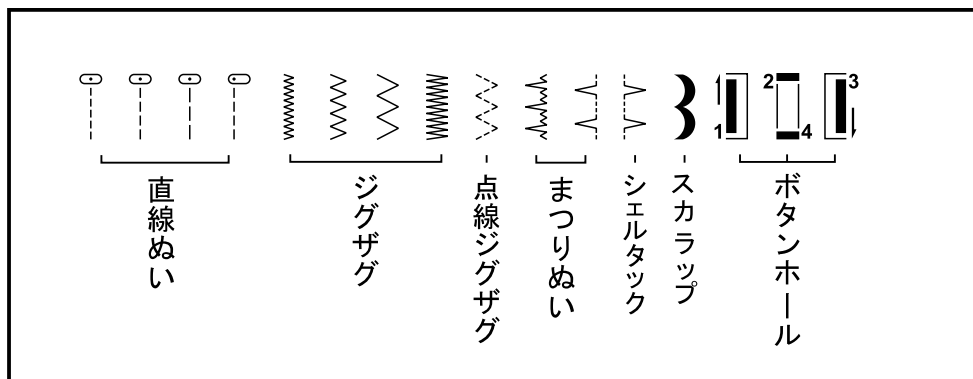
◆ 模様を選び方

⚠ 注意：ケガ防止のために

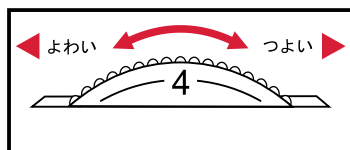
模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



模様選択ダイヤルを回して、模様を選択して下さい。

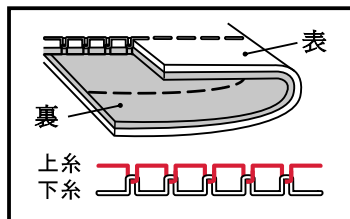


◆ 上糸調子のとり方



● 上糸調節ダイヤル

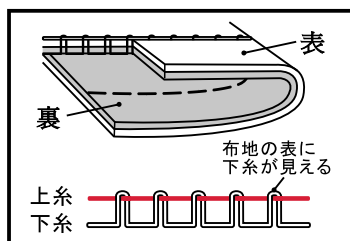
通常、上糸調節ダイヤルを「4」に合わせると、一般的な糸や布で糸調子が合う様に調節されています。



● 正しく調節されている場合

左記のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常なぬい目です。

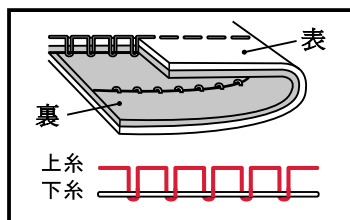
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



● 上糸が強い場合

布の表の糸が1本になっている時は、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸の糸調子が強いので、糸調子ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

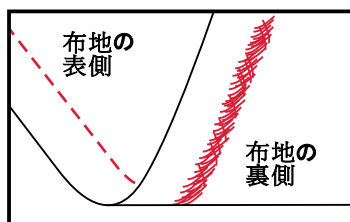


● 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が1本になっている時は、上糸の糸調子が弱いので、糸調子ダイヤルの数字を大きくし、糸調子を強くしてください。

ダイヤルを回しても糸調子が合わない場合には、上糸のかけ方が誤っている場合があります。一度上糸を外し「使用の手びき」をご確認いただき、正しくかけ直してください。

◆ 布地の裏側がタオル地のようになるのは

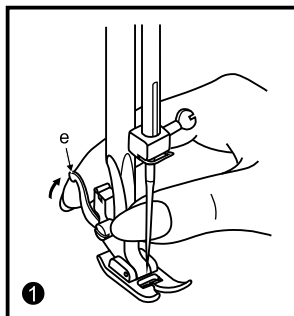


左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸をセットする際に、押え上げレバーを下げたまま糸かけをしてしまっていたり、上糸調子が弱い場合に起こる現象です。

「使用の手びき」をご確認いただき、正しく糸をかけ直してください。

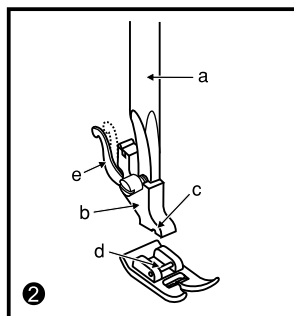
上糸調子を調節する際は、上記をご確認ください。

◆ 押えの取り付けと取り外し方



① 押えの取り外し方

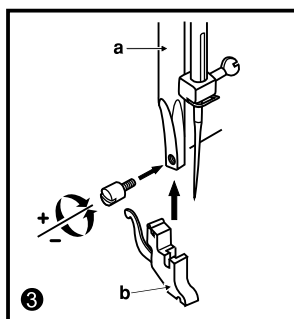
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
(e)のレバーを手前に押すと、押えが外れます。



② 押えの取り付け方

(d)のピンが(c)の凹み部分の真下にくるようにして、押え上げレバーを下げます。

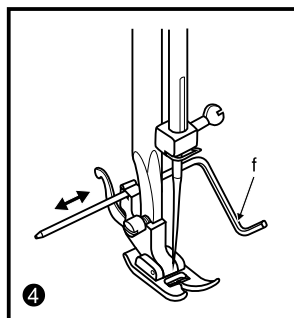
※押えが取り付けにくい場合は、(e)のレバーを手前に押しながら押え上げレバーを下ろします。



③ 押えホルダーの取り付け方

はずみ車を回して、押え棒(a)を上げます。
押えホルダー(b)をネジで図のように取り付けます。

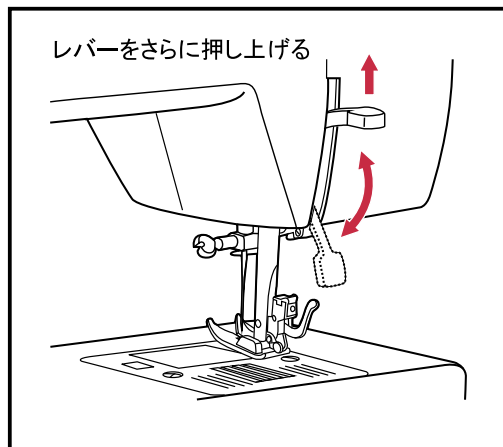
※お買い上げの際には、すでにミシン本体にセットされています。



④ シームガイドの取り付け方

シームガイド(f)を、図のように取り付けます。
シームガイドはしるしになる線や前にぬったステッチに平行にぬうときに使うと便利です。

◆ 2 段式押え上げ

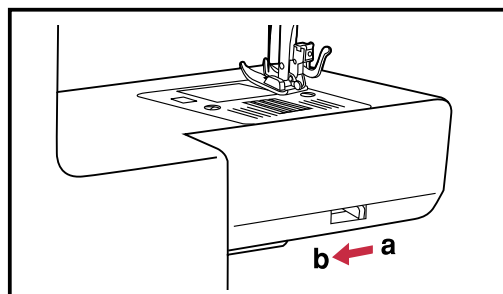


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※このとき、レバーは固定されません。

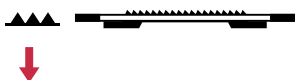
手を離すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

◆ ドロップフィードレバーの使い方(送り歯の上げ下げ)



本体背面右下に、送り歯を上げ下げできるドロップフィードレバーがあります。

a 送り歯が針板の上にある状態



b 送り歯が針板の下にある状態



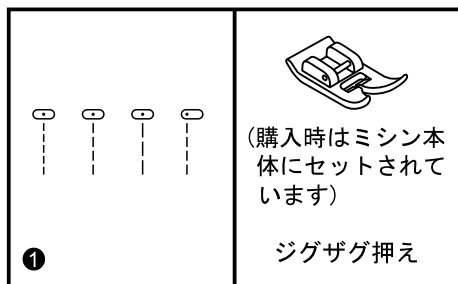
針を上にした状態で、レバーをスライドして、"▲▲▲"(b)位置にセットすると、送り歯が針板上面より下に沈みます。

また、"▲▲▲"(a)位置にセットし、はずみ車を手前に回すと、送り歯が針板上面に出てきます。

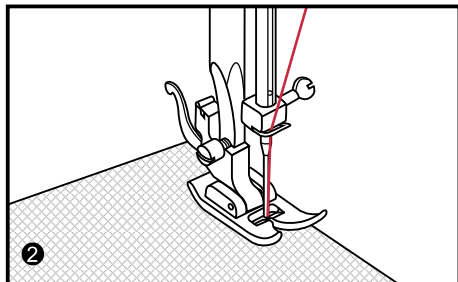
◆ 直線ぬい

⚠ 注意：ケガ防止のために

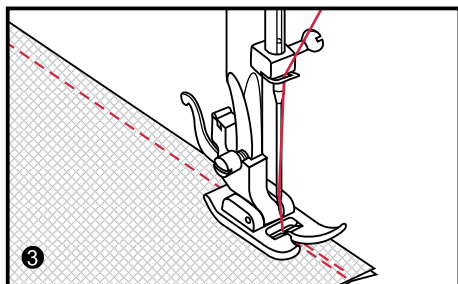
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



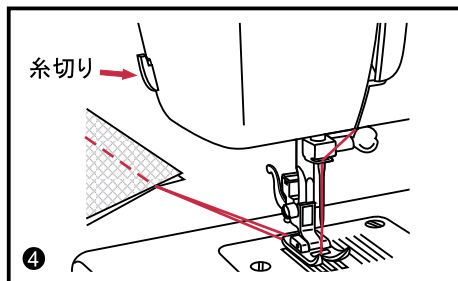
- ① 押えはジグザグ押えを使用してください。模様選択ダイヤルで、4種類の直線から模様を選びます。上糸調節は3～5に合わせます。



- ② ぬい始める位置で、はずみ車を手前に回し、針を刺してから押えを下ろしてください。フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。

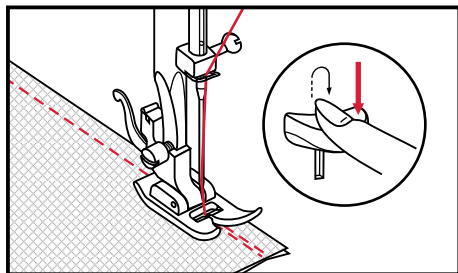


- ③ ぬい終わりましたら、フットコントローラーから足を離し、ストップします。



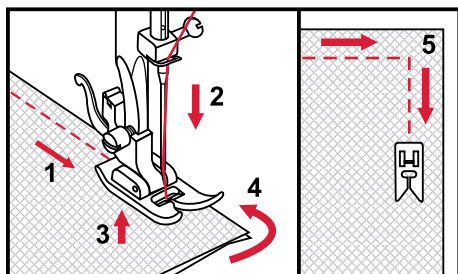
- ④ 押えを上げ、糸切りに糸をかけて手前下に引くと糸が切れます。

◆ 返しぬい



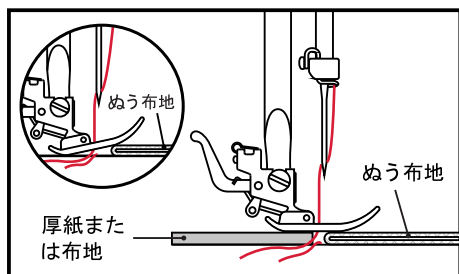
フットコントローラーを踏みながら返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は返しぬいができます。
レバーを離すと前進に戻ります。
ぬい始めとぬい終わりに3～5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず、丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



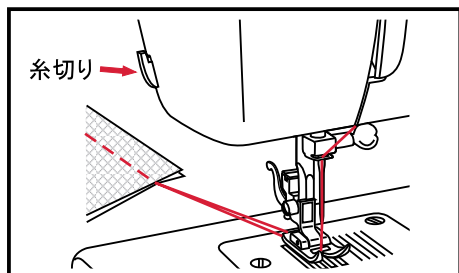
1. 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を離します。
2. はずみ車を手前に回し、針を下げ布に刺します。
3. 押えを上げます。
4. 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
5. 押えを下げて、ぬい始めます。

◆ 厚地のぬい始め



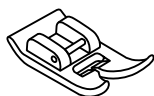
厚地の布はしからぬい始めるときに、押えがかたむいてスムーズにぬえないことがあります。
このような時は、押えの下に布地と同じ厚さの布や厚紙をあてがい、押えを水平にしてぬい始めます。

◆ 糸をカットするには

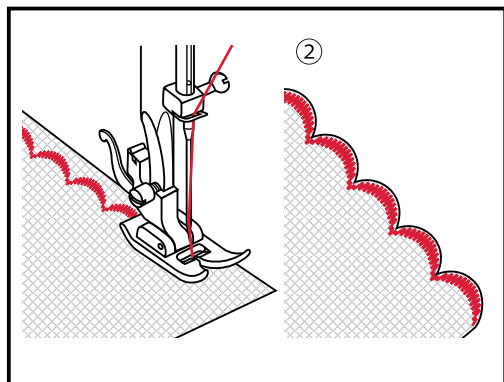
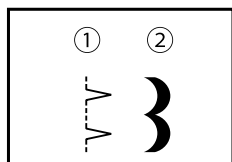


ミシンの左後方にある糸切りで、上下の糸をカットできます。

◆ 飾りぬい



ジグザグ押え



① シェルタック

布はしの飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択つまみは、“” にセットします。シェルの効果を出すには、針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

② スカラップぬい

布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

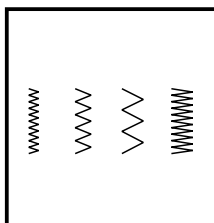
模様選択つまみは、“” にセットします。

布の表から布はしを1cmくらい残してぬいます。糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

◆ ジグザグぬい

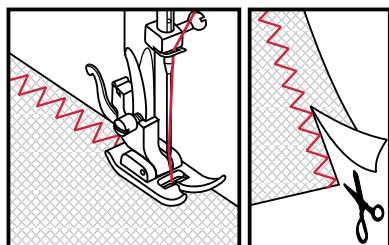


ジグザグ押え



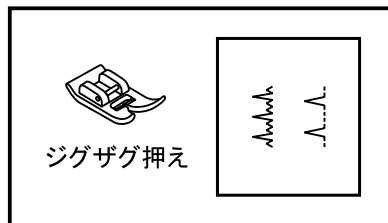
ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

※伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には、市販の接着芯をあてるときれいにぬえます。



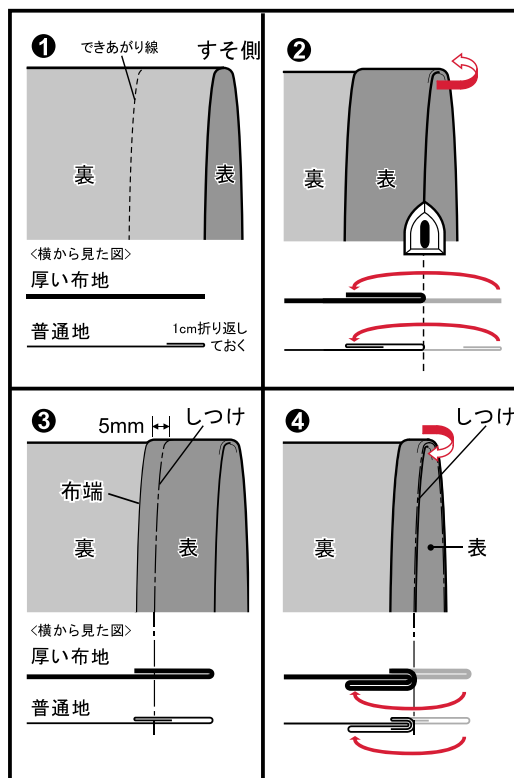
裁断した布はしがほつれないように、縁かがりとしてぬう場合は、ぬい代を少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）



ズボンやスカートのすそ、袖口の裁縫に使用します。
お子さまの服の丈直しなどにもぜひご利用ください。

スカートやズボンのすそは、次の手順でまつります。



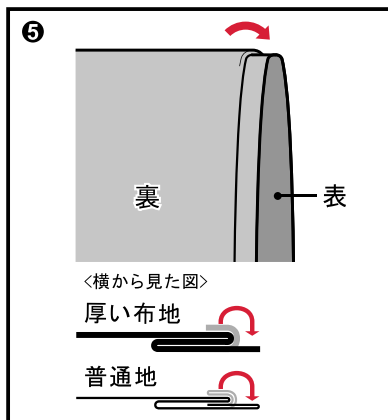
① すそ上げるスカートやズボンを裏返します。

② できあがり線で布を折り返し、アイロンをかけます。

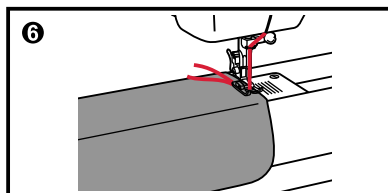
③ 布はしから約5mmのところにチャコペンでしるしをつけ、しつけをします。

④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

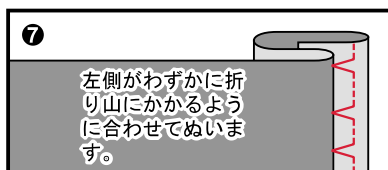
◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）



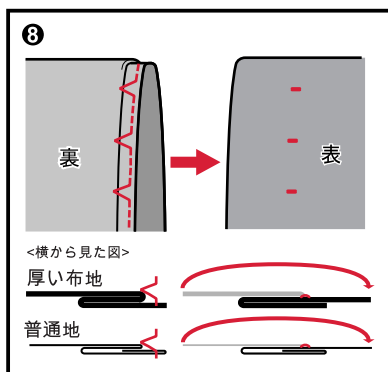
⑤ 布はしを開きます。



⑥ ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。



⑦ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。



⑧ しつけをほどき、布地を表に返します。

◆ ボタンホールのぬい方

準備

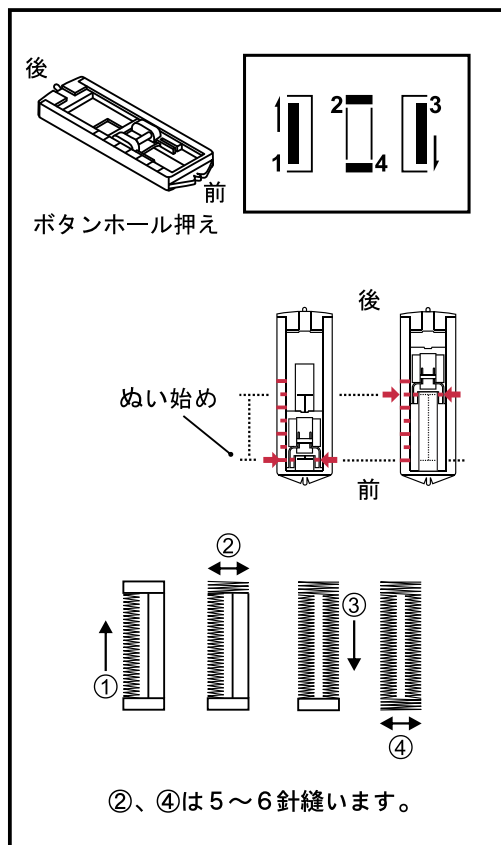
- ・ 押えをボタンホール押えに交換します。ボタンの直径+厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとし、布にボタンホールのサイズのしるしをつけます。

<ボタンホールの作り方>

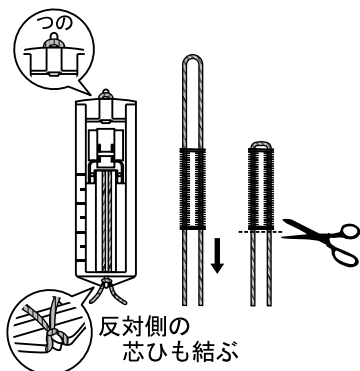
1. ミシンに布をセットします。布に付けたボタンホールのしるしの一番下、中心部分に押えの穴の中央を合わせて押えを下げ、押えの手前に隙間が空かないようにセットします。
2. 4段階でボタンホールを作ります。左図①～④の順でぬいます。模様選択ダイヤルを、図の①～④の順にダイヤルを合わせていきます。②と④は同じ動作になるので、押えをセットする上下の場所だけを変更してください。
3. ぬい終わったら、リッパーを使い、上下のはしから中央に向かって、ボタンホールを切り開きます。

<ヒント>

- ・ 上糸の糸調子を少し弱くするときれいに仕上がります。
- ・ 薄手の布および伸縮性のある布には、必ず接着芯をあてるようにしてください。



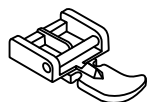
⑤ 芯入りボタンホールの作り方



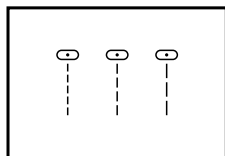
<芯入りボタンホールの作り方>

- ・ 伸びる布地にボタンホールをぬう時は、ボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- ・ 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるつのにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し前方のつのにはさみ、結びます。
- ・ 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ・ 左側の芯ひもを引いて、たるみをなくし、余分の糸を切ります。

◆ ファスナー付け



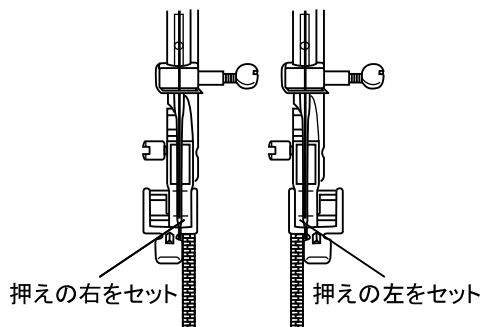
ファスナー押え



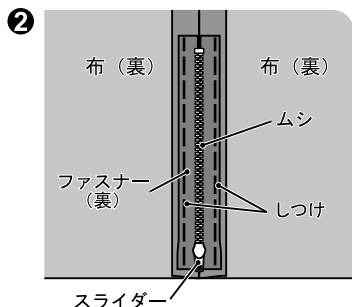
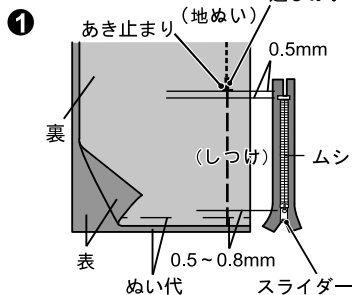
模様選択ダイヤルは、“”の直線を選びます。

ファスナー押えは、ぬう側に合わせて、左右どちらかにセットします。

左側を縫う場合 右側を縫う場合



● つきあわせ



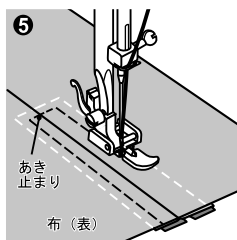
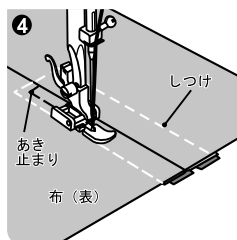
● つきあわせ

① 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

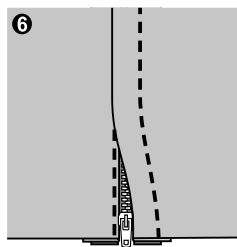
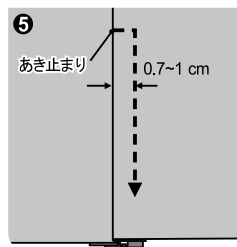
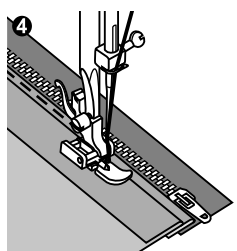
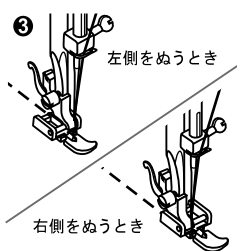
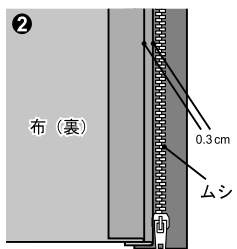
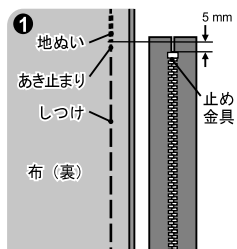
② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。しつけはほどきやすい様粗めでぬいます。

③ ファスナー押えを取り付けます。ファスナーのムシの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、ムシの右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

◆ ファスナー付け



● 脇あき



④ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。布の合わせ目から0.7~1.0cmはなしてぬいます。

⑤あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。右側も同様に0.7~1.0cmはなしてぬいます。

● 脇あき

①中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

②ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

③ファスナー押えを取り付けます。ファスナーのムシの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、ムシの右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

④ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

⑤上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から0.7~1.0cmはなしてぬいます。

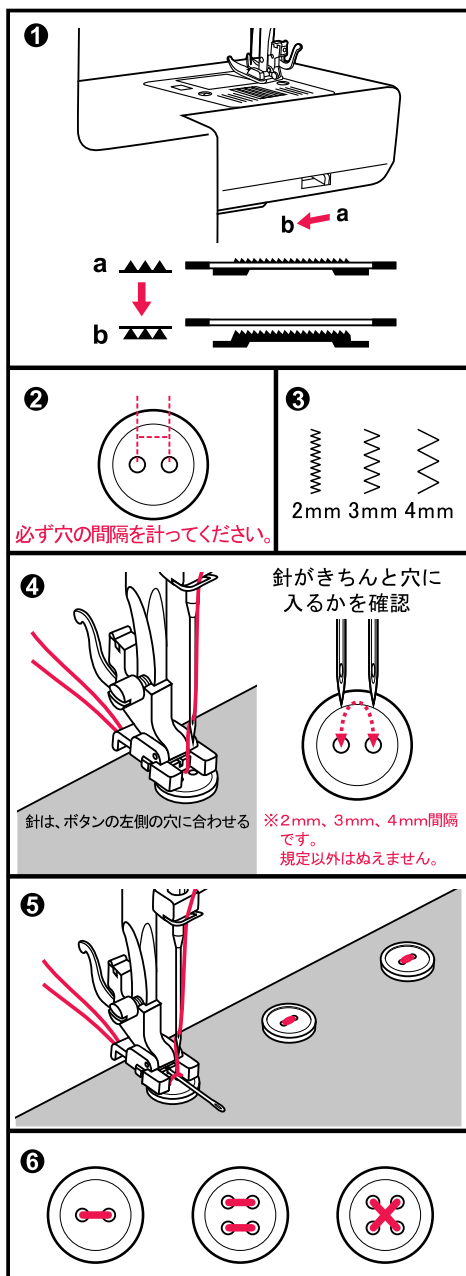
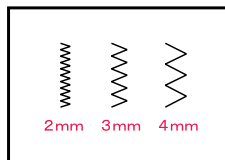
⑥スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

◆ ボタン付け

ボタンつけ押えに変えます。



ボタンつけ押え



- ①ドロップフィードレバーを (b) に移動して、送り歯を下げます。
(ドロップフィードの使い方 21ページ参照)

- ②一度にぬえるのは2つの穴だけです。
ボタンの穴の間隔を定規を使って測ります。
穴の中心から、もう片方の穴の中心までを計ってください。

- ③ボタンの穴に合ったジグザグぬいを選びます。
※規定サイズ以外のボタンはぬえません。

- ④はずみ車を手前に回して、針が左に来たときに、ボタンの左の穴に下りるようにして押えを下げます。
はずみ車を回して、針が左右の穴に下りることを確かめます。

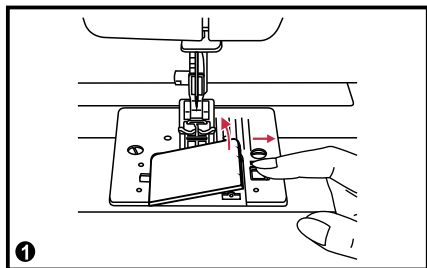
- ⑤付けるボタンに余裕をもたせたいときは、ボタンの上にまち針を乗せてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

- ⑥4つの穴を持ったボタンについては、先に2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいます。

※ボタン付けが終わったら、必ずドロップフィードレバーを (a) の方向に戻し、はずみ車を手前に回して、送り歯を上げておきましょう。

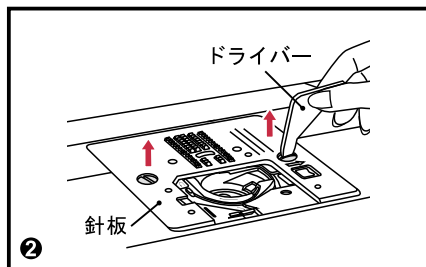
◆ ミシンの手入れ

⚠ 注意：ケガ防止のために
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

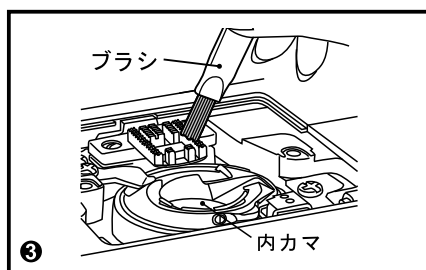


● 内カムと送り歯の掃除

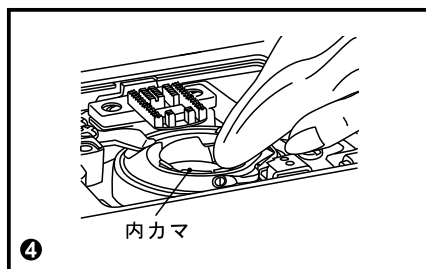
- ① カマカバーをはずして、ボビンを取り出します。



- ② 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属のドライバーではずし、針板を取ります。



- ③ ブラシで送り歯に付く糸くずやほこりを掃除します。



- ④ 内カムをブラシで掃除して、布などで軽く拭きます。

掃除が完了したら、必ず針板を止めネジで取り付け、カムカバーをつけてください。

◆ 調子よくぬえない原因と調整方法

問題	原因	解決方法
ミシンが動かない	電源が入っていない。 下糸巻き軸が右へ押されているとき。 内カマに、糸やごみがたまっているとき。	電源を入れます。 左へ戻します。 内カマの掃除をして、糸やごみを取り除きます。
ぬえない	糸かけが間違っているとき。 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 針の装着方法が間違っているとき。 糸が劣化しているときや、古い糸を使用しているとき。 針のサイズが布にあわないとき。 内カマに、糸やごみがたまっているとき。	使用の手びきを確認して、上下糸を正しくかけなおしてください。 新しい針に取りかえます。 取り付け方向を確認し、正しく取り付けます。 新しい糸に取りかえます。 布に合った針に交換してください。 内カマの掃除をして、糸やごみを取り除きます。
糸調子が合わない	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 針の装着方法が間違っているとき。 糸が劣化しているときや、古い糸を使用しているとき。 ボビンに正しく糸が巻かれていないとき。 ボビンのセットが間違っているとき。 上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。 針のサイズが布にあわないとき。	新しい針に取りかえます。 取り付け方向を確認し、正しく取り付けます。 新しい糸に取りかえます。 使用の手びきを確認し、正しく糸を巻きなおしてください。 使用の手びきを確認し、正しくボビンをセットしてください。 使用の手びきを確認して、上下糸を正しくかけなおしてください。 布にあった針に交換してください。
布地が縮む	上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 上糸の糸調子が強すぎる時。	使用の手びきを確認して、上下糸を正しくかけなおしてください。 新しい針に取りかえます。 適正な強さに調整します。
ぬい目が飛んだり、つった状態になる	ボビンのセットが間違っているとき。 ボビンに正しく糸が巻かれていないとき。 上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。 上糸をかけるときに、押え上げレバーを上げていないとき。	使用の手びきを確認し、正しくボビンをセットしてください。 使用の手びきを確認し、正しく糸を巻きなおしてください。 使用の手びきを確認して、上下糸を正しくかけなおしてください。 押えを上げた状態で、上糸をかけなおしてください。

◆ LED ライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ 針と糸と布地の組み合わせ

※必ずミシン専用の糸をご使用下さい。

	布地の種類	針の種類（番号）	糸の種類・太さ
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ、サテン地	9、11 番	綿 糸 60 番～100 番 化繊糸 60 番～80 番 絹 糸 50 番～80 番
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、パイル地、ギンガム	11、14 番	綿 糸 60 番～80 番 化繊糸 60 番～80 番 絹 糸 50 番～80 番
厚地	カーテン地、キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルト	14、16 番	綿 糸 40 番～50 番 化繊糸 30 番～50 番 絹 糸 50 番

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は、伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より2年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは使用しないでください。

＜オススメ＞

スパン糸（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

株式会社ハッピージャパン

ミ シ ン 営 業 部

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

(本社) 〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515